

# Campus Topics

## 第47回 上南戦 **4連覇達成!!**

総合成績 19勝12敗1引き分け

自動車	南山	16	-	20	上智	
陸上競技	南山	22	-	52	上智	
軟式庭球	男子	南山	4	-	5	上智
	女子	南山	3	-	0	上智
硬式野球	南山	4	-	0	上智	
ゴルフ	男子	南山	6	-	6	上智
	女子	南山	54	-	36	上智
ラクロス	男子	南山	8	-	6	上智
バスケットボール	男子	南山	55	-	112	上智
サッカー	南山	3	-	1	上智	
弓道	女子	南山	47	-	27	上智
	男子	南山	82	-	89	上智
洋弓	男子	南山	3397	-	3376	上智
	女子	南山	2142	-	2203	上智
硬式庭球	男子	南山	6	-	3	上智
	女子	南山	5	-	0	上智

南山大学と上智大学はカトリック大学の姉妹校。毎年対抗戦を名古屋と東京で交互に開催している。今年は南山大学で開催し、4連覇を飾った。

卓球	男子	南山	4	-	0	上智
	女子	南山	3	-	1	上智
水泳	南山	255.5	-	285.5	上智	
柔道	南山	4	-	2	上智	
アメリカンフットボール	南山	14	-	21	上智	
準硬式野球	南山	7	-	8	上智	
剣道	男子	南山	5	-	2	上智
	女子	南山	4	-	1	上智
バレーボール	男子	南山	3	-	2	上智
アイスホッケー	南山	1	-	3	上智	
バドミントン	男子	南山	1	-	4	上智
	女子	南山	3	-	2	上智
ラグビー	南山	30	-	19	上智	
バスケットボール	女子	南山	70	-	73	上智
ラクロス	女子	南山	12	-	8	上智
ハンドボール	男子	南山	35	-	25	上智

# News

## 外国人留学生別科修了式

外国人留学生別科(CJS)の修了式が5月20日に行われ、19ヶ国106名の留学生に修了証・参加証が授与された。マルクス学長は、「皆さんには、日本の言語や文化だけでなく、日本人の心も理解し、世界に伝える力となってくださるよう希望します。さらには、本日、南山大学の留学生別科を修了される皆さんが、世界に羽ばたき、大いに活躍して、南山の名を高めてく



「どうぞよろしくお願いします」と期待の言葉を留学生に贈った。

## 留学フェア

4月19日、名古屋キャンパスで留学を希望する日本人学生を対象に南山留学フェアが行われた。交換協定校のジョージタウン大学をはじめ23大学27名の留学生別科生が出身大学に分かれて、各国の地図や大学グッズを用いながら、流暢な日本語で協定校の様子や町の雰囲気を紹介した。約100名が集まり、様々な質問を投げかけていた。



## B棟・C棟起工式

4月6日の瀬戸キャンパス多目的グラウンドの起工式に続き、4月7日、名古屋キャンパス法科大学院棟隣接建築予定地で、井上淳神父(人文学部助教授)の司式により、B棟・C棟建築工事起工式が行われた。B棟は地上4階建て、延べ床面積3,024㎡の教室棟、C棟は地上3階建て、同1,737㎡の事務・食堂棟で、2007年4月の竣工を予定している。これにより、収容定員増に伴い今後段階的増加していく学生に設備面に対応できるようになる。



備面に対応できるようになる。

## 南山女子部新校舎竣工

3月6日に新校舎の竣工式が行われ、延べ面積11,857㎡で地上4階の校舎に生まれ変わった。幅17m、高さ8mの正門大ゲートをくぐると、壁面に掲げた「Hominis Dignitati」の文字とともにマリア像が訪れる人を出迎え、建物にはシルバーに輝く十字架を仰ぎ見ることが出来る。



カトリック伝統校としての落ち着いた雰囲気

# Special Events

## 卒業式

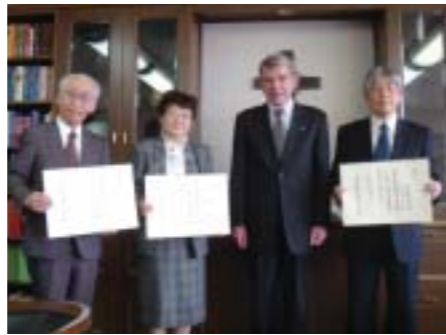
2005年度卒業式を3月21日、名古屋市総合体育館レインボーホールにて行い、2,092名(学部生:1,970名、大学院生122名)の卒業生を社会へと送り出した。



# Information

## 名誉教授称号授与

南山大学は、今春退職された人文学部伊藤秋男教授、早川正一教授、伴紀子教授の三氏に対し、永年の功績を称え名誉教授の称号を授与した。授与式は4月3日、学長室にて行われた。



## 退職

2006年3月31日付

伊藤 秋男 教授 人文学部	ZAGORSKY, Alexei 教授 外国語学部
早川 正一 教授 人文学部	HERBERG, Dieter 助教授 外国語学部
小谷 凱宣 教授 人文学部	ASTLEY, Trevor 講師 外国語学部
伴 紀子 教授 人文学部	近藤 祐一 助教授 外国語学部
KNECHT, Peter 教授 人文学部	岡田 正則 教授 法務研究科
吉田 聖 教授 人文学部	吉田 元子 講師 法学部
田子 健 教授 人文学部	熊崎 敦司 講師 数理情報学部
大久保 泰甫 教授 外国語学部	

## 寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。2月17日～6月1日  
名港海運(株)様  
トヨタファイナンシャルサービス(株)様  
中部電力(株)様  
片倉 清市 様



# 南山大学

発行 学長室  
〒466-8673 名古屋市中区山王町18  
Phone: 052-832-3113 (直通)  
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp  
http://www.nanzan-u.ac.jp

## 入学式

2006年度入学式は、桜の花が咲いた心地よい春の息吹の中、4月1日に名古屋市総合体育館レインボーホールにて行い、学部生2,299名、大学院生241名の入学者を新たに迎え入れた。



## 2006年度新任用教育職員

人文学部 三好 千春 助教授 専攻分野:キリスト教史	総合政策学部 Vellapimuriyil Bose James 講師 専攻分野:Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL)
人文学部 柳澤 田実 講師 専攻分野:哲学、教文学	数理情報学部 奥村 康行 教授 専攻分野:通信工学
人文学部 渡部 森哉 講師 専攻分野:考古学、文化人類学、中南北	数理情報学部 井垣 宏 講師 専攻分野:ソフトウェア工学
人文学部 SAGAYARAJ, Antonyamy 講師 専攻分野:文化人類学、社会学	数理情報学部 藤井 勝之 講師 専攻分野:生体電磁波工学
人文学部 鈴木 貴之 講師 専攻分野:科学論	ビジネス研究科 佐久間 裕幸 教授 専攻分野:会計学
人文学部 六川 雅彦 講師 専攻分野:言語学(音韻論)、日本語学	ビジネス研究科 田畑 吉雄 教授 専攻分野:ファイナンス、オペレーションズリサーチ
外国語学部 RIESSLAND, Andreas 助教授 専攻分野:ドイツ語教育、社会学	ビジネス研究科 願興寺 皓之 教授 専攻分野:労使関係、人的資源管理、経営政策
経営学部 FERRER, Joaquin Jr. Ramirez 講師 専攻分野:経営倫理	ビジネス研究科 広瀬 徹 教授 専攻分野:マーケティング
総合政策学部 豊島 明子 助教授 専攻分野:行政法	ビジネス研究科 林 秀美 助教授 専攻分野:会計学、国際租税論
総合政策学部 BARKER, David Lloyd 助教授 専攻分野:応用言語学、英語教育	ビジネス研究科 山下 忠康 助教授 専攻分野:コーポレートファイナンス、金融システム
	ビジネス研究科 松下 光司 助教授 専攻分野:消費者行動論、マーケティング論
	ビジネス研究科 竹澤 直哉 講師 専攻分野:ファイナンス

## 学位

奥田 太郎 講師 人文学部 社会倫理研究所第一種研究所員 博士(文学) 京都大学 2006年1月23日付	中村 孝一郎 講師 法学部 博士(法学) 大阪大学 2006年3月24日付
川島 正樹 教授 外国語学部 博士(文学) 京都大学 2006年3月23日付	細谷 博 教授 人文学部 博士(文学) 大阪大学 2006年3月28日付
	六川 雅彦 講師 人文学部 Ph.D.(言語学) ミシガン州立大学 2006年5月5日付

## 学生・保証人の皆様へ お知らせ 学生課 **【重要】**

住所等の変更方法が変わりました。

住所等の変更が行われない場合、大学からの重要なお知らせが届かないことがありますのでご注意ください。詳しくは南山大学学生生活Webページをご確認ください。

■問い合わせ先

名古屋キャンパス 学生課  
Phone: 052-832-3118

瀬戸キャンパス 第2課(学生生活担当)  
Phone: 0561-89-2018

学生生活Webページ:  
http://www.nanzan-u.ac.jp/GAKUSEI/

# NANZAN bulletin

南山大学広報誌

vol.157  
2006.6.30



〈表紙:第47回上南戦〉

# 南山大学連続講演会

## 「学科長が語る南山の現在」

申込み受付中

ただし、各講演開催日の1週間前に締切

南山大学では、本学の教育・研究活動を広く一般の方々に知っていただくため、また、地域貢献活動のひとつとして、「学科長が語る南山の現在」と題し、各学科長の研究分野をわかりやすく紹介する連続講演会を5月から12月にかけて全15回開催する。是非、この機会に足を運び、実際に「来て・見て・聞いて」、本学の魅力を体感していただきたい。



日本文化学科長 細谷博教授による第1回講演

開催日	講演者	講演タイトル
第5回 7/1(土)	キリスト教学科長 鳥塚 義文 教授	出会いの深意についてー神学的視点からの考察
第6回 7/8(土)	経済学科長 荒井 好和 教授	官僚による裁量的な金融行政は転換したか?
第7回 7/22(土)	アジア学科長 松戸 庸子 教授	"鏡"としての中国
第8回 8/26(土)	スペイン・ラテンアメリカ学科長 高橋 覚二 教授	スペイン語の動詞
第9回 9/9(土)	総合政策学科長 松戸 武彦 教授	"家族である"から"家族する"へーサザエさんから考え始める少子化政策ー
第10回 10/7(土)	経営学科長 赤壁 弘康 教授	あなたもリスクに無関心ではいけない時代ー資産運用とファイナンスを学ぶ意味ー
第11回 10/28(土)	心理人間学科長 神谷 俊次 教授	自伝的記憶ー自己を支えるものー
第12回 11/11(土)	フランス学科長 倉田 信子 教授	「フランス学」の中のフランス・バロック研究
第13回 11/18(土)	人間文化学科長 服部 裕幸 教授	ことばから見ると人間と文化の本質
第14回 12/2(土)	情報システム数理工学科長 高見 勲 教授	動的システムと制御ーゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらずー
第15回 12/9(土)	法律学科長 岡田 泉 教授	ニュルンベルクからハーグへー国際刑事裁判所と国際社会の未来ー

場 所: 南山大学名古屋キャンパスDB1教室(名古屋市中区山王町18)  
時 間: 14:00~16:00  
定 員: 各講演300名(先着順・無料)  
申 込 方 法: 受講を希望される方は、郵送・Faxまたは、下記Webページの申込みフォームにて、住所、氏名、電話番号、希望講演日(複数申込可)をご記入の上、南山大学学長室までお申込みください。(電話によるお申込みは不可)  
http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/news/2006/koenkai/  
問い合わせ先: 南山大学学長室 052-832-3113

## 2005年度学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で在学中継続して学業、または課外活動で特に優れた成績を修めた学生や特に顕著な善行のあった学生などに授与される学長表彰。今回は31名が受賞した。受賞者にはその努力と栄誉を称え、3月20日、学長から表彰状が手渡された。	【人文学部】 7人	【法学部】 3人
	【外国語学部】 7人	【総合政策学部】 4人
	【経済学部】 3人	【数理情報学部】 4人
	【経営学部】 3人	

## 2006年度学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生を表彰する学部長表彰。今回は123名が受賞した。受賞者の昨年1年間の努力を称え、5月17日(総合政策学部のみ5月10日)に表彰式が行われた。	【人文学部】 21人	【法学部】 15人
	【外国語学部】 24人	【総合政策学部】 20人
	【経済学部】 15人	【数理情報学部】 13人
	【経営学部】 15人	

# NANZAN UNIVERSITY

# キャリアサポートプログラム 2006

「人間の尊厳のために」を教育モットーとする本学では、中部地区を中心として地域社会の発展に貢献できる多様な学識を備えた多くの有為な人材を輩出しており、2004年度から、新たにキャリア教育の観点からのカリキュラム、教育課程、教育方法の再編成を展望した、キャリア形成支援のための全学的な取組を開始した。今回、その具体的な内容について、キャリア教育推進委員会委員長の唐津博教授に話を伺った。



法務研究科法務専攻教授  
キャリア教育推進委員会委員長  
唐津 博

**Q** まず、キャリアサポートプログラムの意義と内容を教えてください。

**A** 近年、いわゆる正社員とは異なる不安定な雇用形態であるフリーターと呼ばれる若年労働者が急増し、さらには仕事に就いておらず、教育や職業訓練を受けているのでもないニートと呼ばれる若年層が多く存在していることが明らかになっています。従来型の雇用を通じた社会参加を拒絶する、あるいは参加できない若年層の増加は、今後の日本社会のあり方に大きな問題を投げかけていますが、この問題は、社会に有用な人材を育成するという社会的使命を担う大学においても、学生の職業観の育成や職業意識の醸成を図り、職業生活を契機とした社会参画、さらにはライフサイクルそのものを展望させるキャリア教育を展開する必要があることを示すものです。本学は、このような観点

から、主として1年次、2年次の学生にそれぞれのライフサイクルに即したキャリア形成の自覚と自立を促し（キャリアサポートガイダンス、講演会等）、職業生活を契機としたキャリア設計のベースとなる基礎学力習得のための方法等を身につけさせ（学部学科別学び方講座、ワークショップ等）、併せて各自の職業生活を展望した職業観を育成し、職業理解を深めさせる（「先輩と熱く語ろう!」セミナー、働く現場見学ツアー、ブラッシュアップセミナー等）プログラムを実施しています。

**Q** 本プログラムの特徴は何ですか。

**A** キャリアサポートプログラムは、学年次に応じたプログラム実施に特徴があります。このプログラムは、学生に配布しているリーフレット（「キャリアサポートガイド2006-キャ

リアデザインを描くために」）に示していますように、3年次生対象のインターンシップ（企業や公的機関等における就業体験）、3年次生から4年次生について実施する就職支援プログラムに繋がる、本学入学後の4年間の学部教育に対応する一連のキャリア形成支援の教育プログラムとしての意義を持っています。

**Q** 従来の就職支援との違いは何ですか

**A** キャリア教育は単に就職活動のための職業観育成や就業意欲の喚起を目的としているものではありません。キャリアは、広い意味では、職業生活を包含する人生や生涯を指す言葉ですので、そのような観点から、学生に、本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」を基礎におく倫理観と社会的使命感、すなわち社会的マインドを備え、併せて職業生活を含めた社会生活において必要とされる基礎的学力、専門的学力やコミュニケーション能力、判断力、創造力等のスキルを習得した、社会に貢献できる、社会に有用な人材を養成する本学の教育プログラムとして、キャリア教育を展開しようとしているのです。

**Q** 学生からの評価、反応はいかがですか。

**A** 例えば、昨年度から企画実施している「先輩と熱く語ろう!」セミナーは、企業や

行政機関等で活躍している比較的若い世代の、本学OB、OGとの交流セミナーですが、学生アンケートではきわめて満足度の高い企画になっています。第一線の先輩の話聞いて、働くことについて学生アルバイトとは決定的に異なるリアリティを感じるようです。また、インターンシップでは、就業体験終了後の報告会から、学生が大きな成長を遂げていることがよく分かります。社会に出たとき今の自分に欠けているものは何か、大学で何を学ぶべきかを考えるようになり、就業体験を通じて、仕事への関心やモチベーションが高まり、勉学目的の明確化、勉学意欲の向上という効果があらわれています。大学生生活が活性化するということですね。

**Q** 最後に、学生および保証人の方へのメッセージをお願いします。

**A** 大学教育は、現代社会の様々な社会的ニーズに対応して絶えず改革を進めていく必要があります。キャリアサポートプログラムは、社会的ニーズとしてのキャリア教育の必要性に対応するものですが、当然のことながら、学生のニーズを正確にキャッチして、これを確実に反映させながら進めていくことにしています。また、キャリアの観点から各学部の専門科目カリキュラムの新たな意義づけをすることも必要です。南山大学の新たな教育プログラムの展開として大いに期待してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
キャリアサポートプログラム			
キャリアサポートガイダンス		『インターンシップ研修』	
学部別学び方講座		自己啓発型インターンシップ	
学部・学科企画		就職支援プログラム	
『先輩と熱く語ろう!』		就職ガイダンス	求人情報 <a href="#">Web</a>
進路ガイダンス		就職講座 <a href="#">全8回</a>	ホットニュース <a href="#">Web</a>
講演会・ワークショップ		業界研究会	学外セミナー情報 <a href="#">Web</a>
働く現場見学ツアー		学内会社説明会	
ブラッシュアップセミナー		公務員試験対策	
職務適性テスト		Webテスト、各種模擬試験	
進路・就職相談 <a href="#">新着</a>			
就職情報システムによる情報提供 <a href="#">Web</a>			
南山エクステンション・カレッジ公開講座（学生向け資格講座[有料:割引制度有]）			



入学

卒業

## International Friendship

### World Plaza

取材:大宮 あゆみ(総合政策学科4年)、石黒 太祐、水野 良子(総合政策学科3年)

World Plaza(以下WP)は瀬戸キャンパスC棟のガラス張りの一角にある。南山大学に入ったからには英語をモノにしたい!という学生のために、「使える英語」を身につけられるようにと2006年4月に設置された。「日本語禁止」の貼り紙が目を引く

WPは、映画やホームドラマの英語DVDなど多くの英語教材を有し、一日を3つの時間帯に分けて日替わりイベントを行うなど充実した取組みが行われている。

開室時間=月曜~金曜10:00~18:00  
http://www.seto.nanzan-u.ac.jp/ps/nepas/



英語で十分にコミュニケーションできるか多少心配はあったものの、記者という大義名分があつてか、記者証をぶら下げその扉を叩いて堂々と中に入ることができた。その瞬間、私たちはまるで遠い異国の地へ出かけてしまったような気持ちになった。すべてが英語の世界。いやいや、ひるんではいけない。英語で取材をするという責務があるのだから。さあ、しっかり英語で取材しよう!

今回参加したプログラムは昼休みの時間に行われるEnglish Lounge Activities(以下、English Lounge)の中のNews Hourというものであった。学生の同会者とスペシャルゲストがコーナーたつぷり、そして真剣にホットなニュースやトピックをどンドン斬っていく。その巧みな話術に引き込まれずにはいられない。参加者も積極的にトークに入っていたり、時には頷きながら耳を傾け、そしてまたある時には笑いの渦に巻き込まれたり、みんながこの空間にある大きなウェーブを体感していた。この他にも多岐にわたる話題とあらゆる切り口から英語を使うプログラムが目白押しである。一週間のプログラムが載っているWeekly Scheduleを眺めていると次のプログラムまで待ちきれなくなってしまう。まさに「English LearnerからEnglish Userへ」というWPのコンセプトを体現したラインナップであるといえよう。

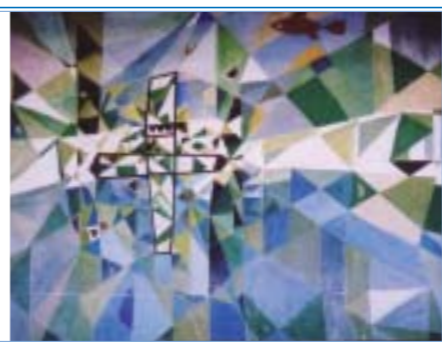
English Loungeが終わり、いよいよ取材



### Nanzan Square

#### フレスコ壁画

名古屋キャンパスには、フレスコ画法により描かれた壁画が大小12面ある。このうち一番大きいものは、G30教室入口正面の横8メートル、縦2メートル80センチの壁画である。中央には黒くふちどられた十字架、それを中心に白い光がキリストの恵みを表すように広がっている。



## 私の研究

### 外貨換算会計の研究

白木 俊彦

企業が影響を受ける経済要因のひとつとして、為替レート変動があります。通貨の交換に伴う会計問題は、通貨制度が整い始める20世紀初めから研究が盛んになってきました。特に、1970年代に変動相場制に移行したところから、英国、米国を中心に議論されてきました。



為替レート変動会計を論じるとき、企業活動の国際化の進展とグループ企業による経営活動の発展を考慮しなければなりません。まず、企業活動の国際化の進展に関しては、これまで各国ごとの考えが反映されてきた会計基準を国際的に統一していくことが重要である、という認識のもとに、会計基準の国際的な調和化が推進されてきたことが影響します。このような各国の動向は、当然、無視するわけにい

かず、わが国特有の考え方も、世界の考え方に調和する方向性で、特に近年進められてきました。私の関心事である為替レート変動の影響に係る会計問題についても、国際的な動きの中で影響を受け、新たな会計思考へ向かって進んでいます。もう1つの企業活動のグローバル化については、個々の企業の会計情報からグループ全体の会計情報に、その重心が移らざるを得なくなってきました。当然、海外で活動する子会社も含むグループ全体の会計情報が作成されなければならない、通貨単位が異なる在外子会社の会計情報を報告通貨単位に統一しなければなりません。そこでは、為替レート変動が問題になってきます。

私の研究は、以上のような国際化に伴う会計情報のあり方に関するものです。長い期間、このテーマに係る研究が行われてきましたが、未だに収斂するに至っていない状況です。それは、換算プロセスで為替レートが用いられていることに起因し、さらに本質的な問題として、会計情報が貨幣評価を前提としていることから発生する問題でもあるからです。



しらき としこ  
ビジネス研究科ビジネス専攻教授  
専攻分野は「会計学」。  
長期テーマは「外貨換算会計」。  
主な著書は「財務会計の世界」(共著、税務経理協会、2005年度)など。  
担当科目は「会計基礎」「国際会計」「財務会計」「連結会計」など。

## 私のクラス

### 「スペインを生きる」

高橋 寛二

スペイン語圏の大学に授業を委託する「スペイン語実習」という科目があります。対象は1年生から3年生で、期間は2月中旬から3月中旬。教員が2名同行します。

学内で4回の事前授業、スペイン北西部の古都レオンでホームステイをしながら他国籍の学生との3週間の混成授業、その後は語学センターの美術講師の説明付きでのスペイン文化研修旅行、帰国後にまとめの授業1回から成ります。

現地での授業は、午前中は5段階に分かれた十数名の混成授業、午後は南山生だけの授業です。最初は聞き取れなくて、話せなくて、泣きべそをかく学生も、そのうち笑って話せるようになるから現地での勉強はさすがです。

その後は、スペイン文化研修旅行です。イタリアに次いで2番目に世界遺産が多い国スペイン。その文化は日本人にとって馴染みの薄いイスラムの影響を抜きにしては語れません。10日間でそのめばしい文化遺跡、史跡や美術館などを見学し、スペインの神髄を体感します。

レオンでスペイン人家族の一員になり、学校で異国の人と友達になり、皆と一緒に街に繰り出し、庶民の憩いの場であるバル(大衆スナック)で夜遅くまでスペイン語で語らひ、



研修旅行で各地を訪れるとスペインを生きているのだと実感できます。

スペイン・ラテンアメリカ学科の中心はスペイン語。これを駆使できなければ勉強にならないと気づき、そのためにはスペイン語文法に通じなければならぬと悟ります。「先生、もっと勉強したい!」と、俄然勉学意欲が燃え上がるのです。この変化を目の当たりにできるのは科目担当者冥利に尽きるというものです。(「スペイン語実習」の担当者は原則として毎年変わります)



たかはし かくじ  
外国語学部  
スペイン・ラテンアメリカ学科教授  
専攻分野は「現代スペイン語文法」。  
長期テーマは「スペイン語動詞の用法」。  
主な著書は「基本のスペイン語単語」(白水社、2006年度)など。  
担当科目は「対照言語学」「スペイン語学特殊研究」など。